

コロナ禍でも、子どもたちが学び、健やかに学校生活を送れるよう 教育予算を増額し、教職員をふやして少人数学級を実現してください

2020年6月15日
新日本婦人の会会長 米山 淳子

6月、多くの地域で学校が再開されました。当会では、「学校再開どうですか？」の緊急アンケート（実施期間6/2～15）にとりくみ、保護者1000人の声が寄せられています。（中間集約6月10日時点771人）。学校再開は、「友だちや先生とあえて嬉しい」「楽しい」（53%）という声が多く寄せられた一方、「不安」が20%を超えました。具体的には、授業時間の増、夏休みの短縮、土曜登校などの学習の詰め込み、炎天下でのマスク着用での熱中症の心配、分散登校終了後の教室の「密」、先生の負担、楽しみにしていた運動会や修学旅行等の行事の中止、給食は、感染予防ばかりが強調され、配膳の手間のかからない献立でおかずは少なく、無言で黒板を向いて食べるという状況がひろがっています。

子どもたちが日々過ごす学校生活が、「遅れた学習を取り戻す」ことや、子どもの権利や心身の健康がないがしろになるような「予防策」ばかりとなったら、せつかくの学校再開の喜びが、生き苦しいものになってしまう。先行きの見えない不安な3カ月の休校期間を過ごした子どもたちの心身の健康を第一に考えて、詰め込みではなく、ゆとりある「学びの保障」と学校生活を望み、以下、要請します。

記

【健やかな学校生活のために】

- 一人ひとりの子どもたちに行き届いた教育、心身のケアができるよう、少人数学級を実現してください。
- 感染や熱中症、子どもの心身のケア等、先生は休憩時間も働いています。すべての学校に教職員を増やすため、10万人の増員を行ってください。

【行事や部活も大事に】

- 子どもたちにとって学校生活とは、勉強だけではありません。行事や部活を一律で中止にせず、工夫しながらも開くようにしてください。

【熱中症対策は必至】

- エアコン未設置の教室、特別教室、体育館、調理室に急ぎ設置してください。そのために、エアコンの「つけしぶり」が起きないように学校運営費を緊急に増額し、命を守るためにエアコン稼働をよびかけてください。
- 多くの学校で夏休みが短縮され、炎天下の通学になります。制服着用はやめる、重いランドセル、通学カバンはやめる、こまめな給水など、積極的な対策がとられるよう通知してください。改善できることは前例がなくても行い、マスクを外すなど、熱中症から命を守ることを徹底してください。

【学びの保障】

- 教科の学習内容を家庭学習等で一部を代替させる通知（6/5）が出されていますが、学校ですべき学習を家庭で肩代わりさせることはやめてください。家庭学習（宿題）は、子どもに関わる大人や家族の状況に左右され、学力格差が広がります。教育の機会均等を子どもたちから奪うことのないようにしてください。
- 「学習指導要領通りに」「教科書は全部やる」ではなく、必要な学習を厳選してください。
- オンライン授業を実施するのであれば、家庭や自治体任せでなく、端末機器、通信環境の整備など、必要な予算を国として確保してください。
- 「遅れた学びを取り戻すのに数年かけて」としているならば、自治体や学校間で競争を生む、全国いっせいで学力テストは、来年度以降も中止してください。

【学校給食】

- 国の責任で学校給食を完全無償としてください。
- コロナ禍でも、子どもの成長に必要な栄養バランスや食事量、主食とおかずの組み合わせのバランスなど、食育の観点を大切に給食の提供をおこなってください。
- 大規模センター方式の給食で、食材の確保が間に合わない事態が起きています。この機会に自校調理方式をすすめること、また、国の責任で全ての小中学校に管理栄養士を配置してください。
- 感染予防や状況に関する正確な情報を提供し、給食が「楽しい時間」となるようにしてください。

【教育の無償化 困窮家庭】

- コロナ禍で収入が激変し、困窮世帯が急速にふえています。就学援助を抜本的に拡充し、手続きの簡略化、いつでも申請できるようにしてください。困窮家庭や地域からのSOSをキャッチできるように、オンライン相談など設けてください。